

福祉避難所としての役割 ～安心して暮らせる施設へ～

☞ **取り組み内容のポイント** ☞ 平成 13（2001）年に社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会が設立して以来、地域の方を対象に、いきいき百歳体操、パワーリハビリテーション講座、脳健康教室等を行い、認知症サポーター養成講座などの出前講座を通じてニーズに沿った取り組みとして行っている。

高知県

社会福祉法人

秦ダイヤライフ福祉会

〒781-0011 高知県高知市薊野北町2-25-8

TEL：088-803-1122 FAX：088-803-1115

●法人創立年

平成 13（2001）年

●法人実施事業

- ①経営施設数合計：9 施設 17 事業
②経営施設・事業【種別毎の数】：
特別養護老人ホーム…1、訪問介護…1、通所介護…1、
短期入所生活介護…1、小規模多機能型居宅介護…2、
認知症対応型共同生活介護…2、
有料老人ホーム（特定施設入居者生活介護）…2

●法人の理念・経営方針

<理念>

我われ秦ダイヤライフ福祉会は、すべての人が生き生きとその生涯を送ることの出来る高齢化社会を作るため、且つ、それぞれの人格が尊重される社会を作るため、常に努力を惜しまない。

ここに、三つのスローガンを提唱する。

1. 人格の尊重 2. 自由と自立 3. 友愛

<基本方針>

福祉サービスの利用者に利益の保護及び地域における社会福祉の推進を図るとともに社会福祉事業の公明かつ適正な実施の確保

及び社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図り、もって社会福祉の増進に努める。

●取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款への記載：記載していない
②事業報告・計画への記載：記載している

●取り組みを実施している施設の概要

【施設名】：あざみの里

【施設種別及び利用定員】：特別養護老人ホーム 定員 80 名

●活動内容

◇活動開始年：平成 20（2008）年 4 月

◇活動の対象者：利用者、利用者の家族、施設周辺地域の住民

◇活動の頻度・時間

- ・いきいき百歳体操 春期、秋期 各週 1 回午前 11 時から約 1 時間
- ・パワーリハビリテーション講座（5/7～7/30、9/7～11/26、1/7～3/28）各週 2 回午前 10 時から約 1 時間半
- ・脳健康教室（4/8～9/23、10/7～3/23）各週 1 回午前 10 時から約 2 時間
- ・出前講座 各月 1 回午前 10 時から約 30 分
- ・認知症サポーター養成講座（地域 2 回、家族会 1 回）

●活動実施の背景、実施にいたった理由

高知県が日本一の健康長寿県構想における南海地震対策を進めるなか、あざみの里周辺地域の 4 町内会の住民からは、自分の近所に独居高齢者や身体等に障害がある方がいて、災害時、地域の高齢者（特に独居）を含めた要援護者が一般の避難所まで避難することが難しいと、あざみの里へ相談があった。

地域の町内会と施設の間で協議を重ね、施設には利用者の生活空間を除き、170 人程度入ることのできる地域交流ホールがあり、要援護者を優先的に保護する「災害時等緊急受け入れ協定」を結んだ。しかし、長期の受け入れは食糧や水などの確保を課題としながらも、災害が落ち着いた段階で一般の避難所へ移動をしていただくこととなっている。高知市へは、あざみの里周辺地域の実情を説明したうえで、平成 23（2011）年 10 月、高知市と市内の社会福祉法人としては初めての福祉

避難所協定を締結した。

●実施内容

年間を通して、地域への取り組みは、いきいき百歳体操は延べ約 1000 名、パワーリハビリテーション講座は延べ約 740 名、脳健康教室は延べ約 490 名の参加となっている。体操教室や講座へ参加をしていただいている方からは、自宅で閉じこもっているより、みんなと一緒に楽しく体操に参加ができ、市場で買い物や友達を作る事ができたといったお声もいただき、健康増進や認知症予防を目的としてではなく、施設が地域の交流の場としていただいている。

「災害時等緊急受け入れ協定」から始まり、福祉避難所について協定を結んだ 4 町内会の住民が約 130 名に対し、当施設の受け入れ可能人数が約 170 名となっているが、災害時には一般の方が福祉避難所へ避難することも予想され、受け入れ可能数を超えると思われる。食料の備蓄や生活必要

物品を家庭から持ち寄り、福祉避難所のなかで地域の方同士でも助け合い、協力をさせていただくことが必要となる。

◎活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

地域への取り組みのなかには、毎年秋に開催する防災対策等を盛り込んだふれあい祭りという行事は、県や市から職員を講師としてお招きし、防災について利用者、利用者の家族、施設職員、地域住民を対象に講演を行っている。また、炊き出しを地域のボランティアの方といっしょに作り、毎年200人くらいの参加となっている。ふれあい祭りへの参加も、年々防災意識が高まっていることから特に近隣町内会の住民が増えてきたと思う。

「災害時緊急受け入れ協定」を結んだ町内会からは、あざみの里へ避難できることをほとんどの住民が理解しており、住民からも避難ができることにとっても安心していらっしゃるお声もいただいている。

◎今後の展開

特別養護老人ホームは、今、地域のなかに建てられ、生活に不安な方からの相談も気軽に來ただけようになってきている。今まで取り組んできた介護予防事業や、コミュニティへの出前講座、ボランティアの方にも協力していただいている中で、あざみの里が地域福祉の拠点となっているのは地域の方からの協力があるからこそであり今後は、災害の拠点としても機能していけるように、互いの強みを生かし、支えあっていける関係を築いていきたい。

◎主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みを実施している施設の事業規模（平成23（2011）年度決算の事業活動収入）〔648,220〕千円
- ※法人全体の事業規模（同上）〔788,167〕千円



あざみの里周辺町内会との災害時等緊急時受け入れ協定



地域への出前講座



ふれあい祭りでの救命救急講座



平成23年10月 高知市と福祉避難所協定の締結